

◆【海員随想】B I S K R A号航海記（14）② 元機関長 新木繁雄

5 月 11 日（金）大西洋航海

大西洋は大時化。船首に上がった波がフロントにある私の部屋のポールドにもものすごい勢いでぶち当たる。大西洋でも海が時化るとたくさんのミズナギドリが飛ぶ。小さいのや大きいなどいろんな種類のミズナギドリが、荒れ狂う波頭すれすれに文字通り水をなぐようにして飛んでいる。クラゲの一種のカツオノエボシが波とともにデッキに打ち上げられている。「変なものがデッキにあるなあ」と思い、図鑑を開いてこの名前を知った。猛毒を持ったクラゲらしい。

昼過ぎジブラルタル海峡を通過し、地中海に入った。ここも大時化だ。数万羽のウミスズメの群れが海峡の小島の陰に、時化を避けて集まっていて、海面がゴマ粒をまいたように真っ黒に見える。

中間軸受け L O の乳化がますます進み、どろどろになった。もう放っておくわけにはいかない。上部から新油を補給しながら、ドレン抜きプラグから乳化油を抜き取った。

C/E（機関長）が「冷凍機を運転中の 2 号機から 1 号機に切り替えてくれ」といつてきた。彼はやればできるのに、自分ではせず、私にやらせる。次のシンガポールで買う予定の道具類のリストを、道具箱も含め、C/E に渡した。船の道具類は乗組員が皆それぞれに部屋へ持ち込んでしまい、機関室には何もない。

5 月 12 日（土）地中海、アルジェに寄港

2 回目の主機フラッシングに使用した L O を、清浄機を通して循環清浄中、C/E がバルブを間違えて別のタンクへ入れてしまい、そのタンクがいっぱいになって、エア抜きから噴き出した。幸い、間違えて入れたタンクが空だったので、異種の油が混ざることにはなかった。C/E でもこれだから、彼らに全面的に仕事を任せると、何が起こるかわからない。

午後 5 時アルジェ港外着。ここで乗組員の一人が交代する。この停泊を利用して、主軸の中間軸受け L O を取り換えた。7 時、交代乗組員がボートで乗船し、次の寄港地シンガポールへ向け出港した。

「海員だより」